

せんだい普及センターだより VOL.69

(平成30年12月3日発行)

BLOSSOM

BLOSSOMとは農家の皆さんと普及センターが  
協同し美しい花を咲かせるよう、また実りあるもの  
となるよう願いを込めて名付けました。

宮城県仙台農業改良普及センター

(宮城県仙台地方振興事務所農業振興部)

〒981-8505

仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320 (地域農業班)

022-275-8410 (先進技術第一班)

022-275-8374 (先進技術第二班)

FAX 022-275-0296 (部共通)

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

だて正夢



知事によるだて正夢の稲刈り

## 「だて正夢」いざ出陣

今年の天候を振り返りますと、7月までは猛暑が続き、梅雨明けは平年より11日早く、一時は水不足が懸念されました。8月中旬以降は大型の台風が相次いで接近・通過。さらに、7月に西日本を中心とした豪雨災害、9月には北海道で震度7の大地震と大きな災害が続きました。

このような状況ではありましたが、宮城県の作況指数は101の平年並み(10月15日現在)の出来秋を迎えることができました。

今秋本格デビューを迎えた期待の水稻新品種「だて正夢」は、美味しさで食卓の天下を取るべく10月24日から全国一斉に販売が開始されました。

さて、今回はGAP(農業生産工程管理)について掲載しています。GAPとは農産物の安全を確保し、より良い農業経営を実現するための取り組みで、まずは「GAPをする」、さらに上を目指すのであれば「GAPをとる(第三者認証取得)」。危険な作業を把握し安全に農作業を行う。農薬を正しく利用することで食卓に安全を届ける。このような生産者の皆様が普段から実践していることがGAPの取り組みの一つでもあるのです。

普及センターは、GAPの普及啓発を含め、これからも被災地域の経営体の体質強化、水田農業の大規模経営体の育成、仙台近郊の多彩な園芸産地の振興に向け普及活動を展開してまいります。

仙台農業改良普及センター 農業普及指導専門監 及川克徳

「米どころ宮城」の夢を叶える期待の新品種 「だて正夢」

# GAP特集

「GAPは身近なところから」。考え方、取り組み方について解説します。

## GAPの取り組みについて

GAP (Good Agricultural Practiceの略) とは、一般的には「農業生産工程管理」と呼ばれていますが、簡単に言うと、「農産物を作る際に適正な手順やモノの管理を行い、食品や労働の安全、環境保全等を確保する取組」のことです。GAPには「GAPをする」として、取り組みを第三者に評価してもらう「GAP認証をとる」の二つのやり方があります。

「GAPをする」にあたっては責任分担を明確にし、生産工程に潜むリスクを評価（危害の大きさと発生頻度で判断）し、対策をルール化します。そのルールに基づき、生産活動を行い、記録に残し、記録を点検・評価することで、改善点を次の生産活動に活かすことができます。つまり、自主的に取り組むことによって現場も労働者も経営者も変わっていくことにつながるのです。

例えば道具の置き場所を決め、使った後は元に戻すというルールを実行することも「GAPをする」ことの一つです。決して難しいことではなく、身近なところから継続して実施することが大切です。

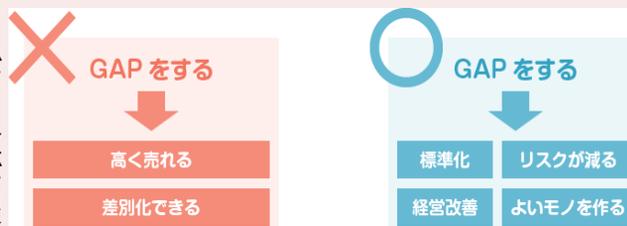
一方「GAP認証をとる」には、第三者認証機関の認定を受ける必要があります。第三者認証として国際水準GAP (GLOBAL G.A.P, J-GAP, ASIAGAP) というものがあります。それらによって定められている①食品安全、②環境保全、③労働安全、④人権保護、⑤農場経営管理の5つの項目における規準に従って、農畜産物の生産工程が適正に管理されているか評価・認証してもらうことが、「GAP認証をとる」ということです。GAPの取り組みは身近なところからですが、取り組みを発展させて国際水準GAPの認証を取得することで社会的な評価を得ることもできます。



使った道具は所定の場所に

## GAPをすれば儲かりますか？

GAPに取り組むと他の農産物と差別化されるのでしょうか？GAPは差別化をするための取り組みではなく、誰もが守るべき規準のようなものです。GAPに取り組むことによって作業手順の標準化や効率化、安全性の確保、経営改善が図られ、その結果としてよい農産物を作り出すことができるようになるのです。さらに、競争力が強化され、農業経営の改善が図られることで、次世代に経営をつないでいくことが期待されます。



農林水産省HP「これから始めるGAP」より

## GAPに関する動き

農林水産省の調査（平成30年5～7月）によれば、平成30年のGAP認証を取得した農産物の出荷量が、平成29年に比べて全国で1.8倍まで増加しています。一部の量販店ではGAP認証を取得した農産物を優先的に仕入れる動きがあります。仙台普及センター管内では5法人が国際水準GAP (GLOBAL G.A.P 4法人, ASIAGAP 1法人) を取得しています。さらに、認証取得に向け取り組んでいる法人も見受けられます。

また、環境保全型農業直接支払交付金では今年度からGAPの取り組みが交付要件に加えられたことから、JA仙台、JAあさひなどで平成30年7～9月にGAP研修会が開催されています。総勢約50名の生産者の皆さんが、GAPの取り組みについて学びました。このように、市場から注目されるだけでなく、交付金等の要件とされており、

近い将来、「GAPをする」ことが農業経営の基本になると考えられます。農林水産省のホームページにGAPの基礎を学べるオンライン研修「これから始めるGAP」(<http://gap.maff.go.jp/>) がありますのでぜひチャレンジしてみてください。



JAあさひな環境保全型農業直接支払交付金に関わるGAP研修会

## トピックス

## 「だて正夢」本格デビュー！

宮城県期待の新品種「だて正夢」が、ついに本格デビューしました。でんぷん質の一種であるアミロースの含有量が通常のうるち米より少ないため、もちもち食感と甘みが強く、はつきりした粒感が特徴で、冷めてもおいしい“極”良食味品種です。

当普及センターでは昨年度から、大郷町に「だて正夢」の栽培技術普及展示ほ場を設置しています。展示ほ場の今年の生育は、莖数が少なく、目標の生育推移とは少し異なりましたが、収量は「ひとめぼれ」と概ね同程度でした。展示ほ場をお願いした生産者の森合久則さんは、莖数確保の重要性を感じられ、今後のだて正夢栽培にますます磨きがかかる様子でした。

また、仙台市若林区で「だて正夢」を栽培した青年農業士の遠藤耕太さんは、9月20日に村井知事と「だて正夢」を刈り取りました。遠藤さんは、「今年は夏場の水不足など栽培で苦労したが、おいしい米ができるよう努めた甲斐があり、米の良さが良い」と太鼓判を押しています。村井知事も刈り取った稲を手に取り、「伊達政宗公が実現しなかった天下を、このお米でとりたい」と力強くコメントしました。

昨年は生産量が少なく、品切れが続出しましたが、今年は県全体で昨年の約6倍にあたる310ha（当普及センター管内37.7ha）作付されており、より多くの方に食べていただけたと思います。既に百貨店、米穀店、量販店の一部で販売されており、店頭で見かけた際には是非ご賞味いただき、「だて正夢」の実力をご堪能下さい。



収穫を迎えた「だて正夢」



だて正夢の収穫イベントの様子

## ご紹介します ～新青年農業士 内海孝則さん（松島町 野菜）～

内海孝則さんは、松島町の有限会社サンフレッシュ松島及びマキシマファーム株式会社で、養液栽培トマトの年1作型長期多段取り栽培を行っています。「松島とまと」を生産する1ha規模の大型ガラス温室2棟の農場長として従業員を束ねるとともに、GLOBAL G.A.P認証を取得し、施設の生産工程管理を担っています。新たにいちごの生産をはじめ、地元の直売施設やホテル、菓子業者と積極的に連携して、これからの経営を担う期待の若手農業者です。



内海孝則さん

## 頑張ってます ～宮城県からの派遣職員 石川桂子です～

平成30年4月より、宮城県から派遣されてきました石川桂子です。私の担当は、農地法の施行や農業振興地域の土地利用調整及び整備に関することです。

リースしているポータブルカーナビをお供に現地調査に行くこともあるのですが、このナビはデータが震災前のものであるため、車で各地を巡りながら復興のあゆみを感じています。派遣期間終了の平成31年3月まで、宮城県の復興に少しでも役立てるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

宮崎といえばマンゴー！おすすめの切り方を紹介します。中に大きく平たい種があるので3枚におろします。マス目状に切り込みを入れ裏返すと画像のように食べやすい姿になります。



# ～お知らせ～

## 入賞おめでとうございます！

### ～平成30年度宮城県農林産物品評会・花き品評会～

平成30年10月20～21日、みやぎまるごとフェスティバル2018の一環として、平成30年度宮城県農林産物品評会と花き品評会が開催されました。

会場となった県庁1階ロビーには、出品された水稻うるち玄米133点、果実60点、野菜116点、林産物39点（農林産物品評会 計348点）、切り花類85点、鉢物類35点、花壇用苗物類37点（花き品評会 計157点）が展示され、多くの来場者で賑わいました。

今年は天候不順が続いたにもかかわらず、県内各地域から品質の高い農林産物が出品され、当普及センター管内からは、次の方々が入賞されました。おめでとうございます。

部門	品目名	受賞者氏名（敬称略）	市町村	受賞名
花き	ビオラ	佐藤 敏充	多賀城市	金賞 宮城県議会議長賞
花き	トルコギキョウ	佐藤 繁啓	仙台市	金賞 仙台市長賞
花き	ビオラ	佐藤 清敬	仙台市	銀賞
野菜(果菜類)	ミディトマト	(株) 未来彩園	大衡村	宮城県知事賞（2等）



佐藤敏充さんと受賞したビオラ



佐藤繁啓さんと受賞したトルコギキョウ



写真：

左：ビオラ（佐藤清敬さん）

右：ミディトマト（（株）未来彩園さん）

## 普及活動検討会が開催されました

JAあさひな営農総合センターを会場に「第1回仙台地域農業普及活動検討会」を9月4日（火）に開催しました。この検討会は、学識経験者、農業者や関係機関等12名の方々に委員をお願いし、普及活動の内容や手法、今後の普及活動について評価や助言をいただくものです。今回は11名の委員に参加いただき、平成30年度のプロジェクト課題の取り組みを中心にご検討いただきました。検討内容はHPで公表していますので、ぜひご覧下さい。

「Web検索キーワード：

仙台農業改良普及センター 普及活動検討会」



プロジェクト課題の進捗状況を説明する柴田技術主査